



TITLE:

花山だより(三月)

AUTHOR(S):

星見山人

CITATION:

星見山人. 花山だより(三月). 天界 1935, 15(169): 252-252

ISSUE DATE:

1935-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167018>

RIGHT:

花 山 だ よ り (三月)

1日の午後、倉敷の荒木氏が山へ來られました。約一ヶ年の豫定で、花山で研究を續けられる筈で、今まで公文理學士が受持つてゐられた氣象係りを早速2日から引繼ぎ、又た上島先生の御手傳として、太陽分光寫眞の撮影も始めてゐられます。それから或る夜、星見山人が星を見てゐますと何處からか妙へなるオルガンの音と共に讚美歌を唱ふ聲が聞えて來ました。ハテ誰だツたのでせうか？……今月は春休みなので學校の生徒團體等の參觀も相當ありましたし、遠方からの來訪者も大分ありました。15日に岐阜の廣瀬氏が來臺一泊され、27日から30日まで和歌山の小槇氏が來臺。29日には名古屋の村上先生が來臺。又た、小山先生が歸洛され、9日に花山に來られ、10日朝御一家お揃ひで倉敷へ引き移られました。それから、此の暫らく天文臺の工場に職工が居なくて、非常に不便でしたが、今度18日から太田君と言ふ人が毎日通勤して呉れる事になり、今まで溜つてゐた仕事をどんどん片付けて呉れるので、皆んな大喜びです。

扨て風害復興工事は、大ドーム亜鉛板張りが7日で終つて、11日には銀色ペンキも塗り終つて、すっかり見違へる程に新しく青空に輝いてゐます。別館のドームも多分近く塗り替へてもらふ筈です。併し官舎の方は却々進まず、月末頃やつと大工の手を離れ、これから左官と疊屋が入る筈ですから、まだちよつと暇間がとれそうです。

四月1日から大阪で開かれる國產工業博覽會へ種々の鏡や望遠鏡を出品する爲めに、28日午後から柴田、公文兩先生と太田君とが出品物をトラックに積んで大阪まで持つて行かれました。生憎にはかに雨降りとなつて大層困られた由です。29日から松竹座に「世界の終り」と言ふ映畫が來ました。何んでもフランマリオンの原作で、レクセル彗星が地球と衝突すると言ふ筋なのです。高城氏の交渉の結果、臺員一同打揃つて映畫觀賞會と言ふ事になりました。見た感想は如何ですつて？ サア、それは此處で餘りハツキリ言はない事にしませう。どうせ、新聞にも批評が出た事と思ひますから……。

(星見山人)